

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：24501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05601・19K20808

研究課題名（和文）ヴォイヴォディナ・ルシン語の動詞語彙の意味と語源に関する共時的・通時的研究

研究課題名（英文）A Synchronic and Diachronic Study on the Semantics and Etymology of Verbal Lexis in Vojvodina Ruthenian

研究代表者

岡野 要（Okano, Kaname）

神戸市外国語大学・外国学研究所・非常勤講師

研究者番号：40828050

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ヴォイヴォディナ・ルシン語の基礎的な動詞語彙の意味を通時および共時的観点から分析した。これまで辞書を除けば詳細な研究のなかったルシン語の動詞語彙について、語源から見た他のスラヴ語との共通性、意味変化の規則性、現代語における語彙の分布といった点を取り上げ、辞書や文法書の記述にはなかった語彙間の意味の対立や各概念の語彙化パターンの体系性を中心に考察を行った。具体的には、移動動詞と感覚動詞を取り上げ、移動 や 感覚 といった概念が語源的には共通スラヴ語から継承された語彙が用いられるが、ほかのスラヴ語と部分的に共通しつつもルシン語独自の発展やルシン語独自の用法が見られることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の対象となっているヴォイヴォディナ・ルシン語は、話者が1万5千人ほどしかおらず、近い将来消滅することが危惧される危機言語である。このような言語の語彙体系を記述・分析することは、ルシン語の保持や系統的にも地理的にも関連する他のスラヴ諸語・ヨーロッパ諸語の研究のために意義があるだけでなく、社会的に優位にある言語（国家公用語・地域公用語）の影響下に置かれる少数言語がどのような変化を被るか、またどのように言語（および民族文化・アイデンティ）を維持していくかを捉えるために非常に重要なことでもある。

研究成果の概要（英文）：This project provided a synchronic and diachronic study on the semantics of basic verbs in Vojvodina Ruthenian. Our research dealt with the topics such as the etymology and regularity in semantic changes, and the distribution of the verbs in modern Vojvodina Ruthenian, and analyzed the systematicity of their lexicalization patterns. Concretely, we analyzed the verbs with meaning of motion and perception, and pointed out that the Vojvodina Ruthenian verbal lexis feature some unique changes and usage, using the common verbs inherited from the Common Slavic to lexicalize the concepts such as "motion" and "perception".

研究分野：言語学

キーワード：スラヴ諸語 危機言語 言語変化 語源 語彙論 言語接触 ヴォイヴォディナ・ルシン語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ヴォイヴォディナ・ルシン語はセルビア共和国北部およびクロアチア共和国東部で話されるスラヴ系の少数言語である。セルビア共和国ヴォイヴォディナ自治州では、国家公用語であるセルビア語とならび地域公用語のひとつにもなっているが、この言語を第一言語として話す人は1万2千人程度しかおらず、近い将来に消滅が危惧される言語のひとつでもある。

ヴォイヴォディナ・ルシン語の研究は、ルシン語を母語とする現地の研究者のほか、ヨーロッパを中心とするスラヴ語研究者によって行われてきたが、前者の間では自治州の地域公用語として機能するための標準化の問題やセルビア・クロアチア語との2言語使用による問題といったテーマがその大部分を占め、後者の間ではヴォイヴォディナ・ルシン語の社会言語学的状況およびほかのルシン語変種やスラヴ語との系統的な関係に関するものがほとんどであった。

本研究では、ヴォイヴォディナ・ルシン語研究においてほとんど取り上げられることのなかった動詞語彙を取り上げ、語源からみた意味の発達のパターンと現代語における分布の詳細な記述・分析を行った。また、従来の研究では、借用語の少ない動詞を周辺言語との接触という観点から分析したものはほとんど存在しなかったが、ルシン語の動詞語彙にも言語接触の影響が見られる可能性があることを視野に入れ、研究を行った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の3つに分けられる：

(1) 共時レベルにおけるルシン語の基本的な動詞語彙の意味と分布を分析し、ルシン語において「移動」や「感覚」といった普遍的な概念がどのように語彙化(言語化)されるかを詳細に記述し、一般言語学や言語類型論などで提示されている傾向とどの程度一致するのかを確認した。また、スラヴ諸語における語彙化パターンの共通性とヴォイヴォディナ・ルシン語の独自性にも着目し、ヴォイヴォディナ・ルシン語がスラヴ諸語においてどのような位置にあるのかを示すことを試みた。

(2) ルシン語の動詞には借用語が少なく、共通スラヴ語から継承された語彙が数多く残されていることが確認できるが、意味の発達のプロセスが他のスラヴ諸語とどの程度共通し、また地域的に隣接するスラヴ諸語・諸方言とどの程度関連が見られるかを分析した。

(3) ヴォイヴォディナに暮らすルシン人は、約270年前にカルパチア山麓から現在のセルビア・クロアチアに移住したが、移住後に接触した周辺言語から数多くの語彙を借用している。これまで、借用語の少ない動詞については、言語接触の影響を指摘する研究は少なかったが、形態を伴わない意味や用法のみの借用に注目し、ヴォイヴォディナ・ルシン語に見られる周辺言語、とりわけセルビア語とクロアチア語の影響を明らかにした。

3. 研究の方法

目的(1)と(2)については、セルビアおよびクロアチアでの現地調査時に収集したヴォイヴォディナ・ルシン語による出版物およびインターネット上に公開されている報道記事を言語資料に使い、現代語における動詞の意味と用法をできるだけ客観的に分析できるようにした。また、書き言葉に用例が少ない語彙については、高等教育を受けたヴォイヴォディナ・ルシン語話者をインフォーマントにした聞き取り調査やアンケート調査を行い、サンプル数が極端に少なくならないようにした。語源的な観点からの研究では、スラヴ語および印欧語関連の語源辞典およびハンガリー語語源辞典のほか、アクセスが可能な方言資料などを併用し、標準語のレベルだけでなく方言のレベルでも観察することで、地域的な共通性をより細やかに確認できるよう努めた。

目的(3)については、上にあげたヴォイヴォディナ・ルシン語の出版物およびインターネット上の報道記事にみられる「誤用」を分析し、接触言語であるセルビア語およびクロアチア語からの干渉がどの程度見られるかを確認した。また、言語接触に起因する「誤用」が起きる条件を明確にするために、集めた用例を基にしたアンケートを作成し、母語話者に回答してもらい、その後個別に内省してもらう機会を設けた。アンケートの対象者を20代~80代に設定することで、言語接触の影響が世代間でどの程度異なるかについても調査を行った。

4. 研究成果

(1) ヴォイヴォディナ・ルシン語の「移動」を表す動詞は、ほかのスラヴ諸語と同じように語幹で移動の様態をコード化し、接頭辞などの付随要素で移動の経路・方向をコード化する付随要素枠づけ言語としての特徴を見せる。移動動詞は、そのほとんどがスラヴ語由来の語彙であり、借用語の大きな影響はないが、例えば、*rušac še*「動く」が現代語では「出発する」の意味で用いられることが多く、これは対応するセルビア語の動詞 *kretati*「動く」が「出発する」へと意味を拡張させたのを用法のみ借用した結果であると考えられる。

(2) ヴォイヴォディナ・ルシン語を語源から見たとき、すでに述べたように、共通スラヴ語の語彙層から継承されたものが多く、ほかのスラヴ語と共通する語彙が多いが、意味の変化パターンについては、共通する部分と異なる部分の両方が見られる。例えば、水中における移動を表す動詞の分布は、基本的にはチェコ語やスロヴァキア語と類似しているが、正確な語源の不明な動詞 *čirjac še*「沈む；沈没する；潜水する」がある点で大きく異なるほか、「溺れる」の意味に動詞 *davic še* を用いる点で南スラヴ語と共通しており、この意味は言語接触により獲得されたと考

えられる。

(3) ヴォイヴォディナ・ルシン語の感覚動詞は、語源的に他のスラヴ語と共通するが、各語彙の意味の分担には違いがある。すでに類型論的な研究で指摘されているように、知覚行為には「見る」、「聞く」のような能動的な知覚行為と「見える」、「聞こえる」のような内的な知覚、「音がする」のような受動的な知覚があるとされるが、ヴォイヴォディナ・ルシン語でも3つのこととなるタイプの知覚行為を語彙で区別する傾向があることが確認された。また、動詞 *čuc* が書き言葉では聴覚動詞として、一部の口語では嗅覚動詞として使用される例も見られ、ほかのスラヴ語ではどちらかの意味に完全にシフトした動詞が、ヴォイヴォディナ・ルシン語ではゆれを見せるということも確認された。視覚・聴覚・嗅覚については、すでに分析が終了し、分析結果を国際画会で公表しているが、触覚・味覚については調査結果を今後発表する予定である。

(4) ヴォイヴォディナ・ルシン語の「運動の動詞」と呼ばれる動詞は、移動が一方向へ行われるかそれとも多方向へ行われるかで動詞(定動詞と不定動詞)を区別する。これはロシア語やポーランド語といった東西スラヴ諸語に見られる特徴である。ヴォイヴォディナ・ルシン語の定動詞と不定動詞については、これまで文法書における短い記述しかなかったが、本研究で行った分析により、定動詞と不定動詞の個別的意味の詳細を明らかにし、その上でヴォイヴォディナ・ルシン語の「運動の動詞」が「往復の移動」の意味を表さない西スラヴ語タイプに分類され、東スラヴ語であるとされるほかのルシン語変種とは異なるものであることを指摘した。

(5) 現代ヴォイヴォディナ・ルシン語では、定と不定を区別する「運動の動詞」のうち、いくつかの動詞が定と不定を区別せず、定動詞のみで両方の意味を表す例が確認できる。このような定と不定の中和(=定動詞のみの使用)が起きるケースは、いずれも接触言語であるセルビア語・クロアチア語に形態的・意味的に共通する動詞がある場合のみであり、定と不定の区別のない接触言語の干渉により定と不定の中和が引き起こされている可能性があることを指摘した。また、このような中和は書き言葉でも起こり、聞き取りおよび内省による調査の結果、40代以下のヴォイヴォディナ・ルシン語話者は一部の動詞の定と不定の区別を感じない場合があり、標準語に定と不定のペアが存在しても、定動詞のみしか使用しない傾向があることが分かった。このような中和は本来不定動詞しか用いられないはずの動名詞の形にも見られ、現代語では「飛ぶこと」、「走ること」を表す動詞名詞が本来の不定動詞からではなく定動詞から形成されるという事実も併せて指摘した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 -
2. 論文標題 Sposoby vyrazhenija futural'nosti v rusinskom jazyke Voevodiny (v sopostavlenii s drugimi slavjanskimi jazykami).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Milliaressi, T. (Ed.) La Relation Temps/Aspect: Approches Typologique et Contrastive	6. 最初と最後の頁 139-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 -
2. 論文標題 Genitiv otricanija v rusinskom jazyke Voevodiny.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Contributions to the 21st Annual Scientific Conference of the Association of Slavists (Polyslav)	6. 最初と最後の頁 170-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 -
2. 論文標題 Verba i nomina dicendi u vojvodjanskom rusinskom jeziku.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Deveti medjunarodni interdisciplinarni simpozijum "Susret kultura"	6. 最初と最後の頁 207-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 2
2. 論文標題 Lexical and derivational system of Ruthenian aquamation verbs (in Ruthenian)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ruthenian Studies	6. 最初と最後の頁 63-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19090/rs.2018.2.63-87	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 23
2. 論文標題 Syntax of impersonal existential sentence with the negative particle njet (in Ruthenian)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studia Ruthenica	6. 最初と最後の頁 56-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 3
2. 論文標題 Slavjanske glagoly podvodnogo peremeshchenija: paralleli i rashozhdenija.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Limes Slavicus	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 48
2. 論文標題 Slovak Verbs of Aquamotion (in Contrast with Other Slavic Languages) (in Serbian)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Slavica	6. 最初と最後の頁 30-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.31034/048.2019.02	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 23
2. 論文標題 Vojvodina Rusyn Motion Verbs in the Context of Language Contact.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 スラヴ学論集	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaname Okano	4. 巻 -
2. 論文標題 K voprosu parnosti glagolov dvizhenija v rusinskom jazyke Voevodiny.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Contributions to the 22nd Annual Scientific Conference of the Association of Slavists (Polyslav) (Die Welt der Slaven. Sammelbände/Sborniki 65.)	6. 最初と最後の頁 182-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 岡野 要
2. 発表標題 スロヴァキア語における水中・水上の移動を表す動詞の意味と分布 ロシア語およびほかのスラヴ諸語と比較して
3. 学会等名 日本ロシア文学会関西支部2018年度春季総会・研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaname Okano
2. 発表標題 K voprosu parnosti glagolov dvizhenija v rusinskom jazyke Voevodiny.
3. 学会等名 Polyslav XXII (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaname Okano
2. 発表標題 Glagoly zatrudnennogo peremeshchenija v rusinskom jazyke Voevodiny.
3. 学会等名 日本ロシア文学会第68回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡野 要
2. 発表標題 言語の内的変化と言語接触のはざままで ヴォイヴォディナ・ルシン語の運動の動詞に見られる変化について
3. 学会等名 日本スラヴ学研究会2018年度研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaname Okano
2. 発表標題 Verbs of Underwater Motion in Serbian and Bulgarian (in Bulgarian)
3. 学会等名 Readings in Bulgarian Studies - Szged 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaname Okano
2. 発表標題 Language and Ethnic Identity of the Rusyn Minority in Croatia.
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaname Okano
2. 発表標題 Semantics and Etymology of Verbs of Olfactory Perception in Vojvodina Ruthenian (in Serbian)
3. 学会等名 Polyslav XXIII (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaname Okano
2. 発表標題 Verbs of Auditory Perception in Vojvodina Ruthenian and their Slavic parallels (in Serbian)
3. 学会等名 International conference "Languages and Cultures in Time and Space 9" (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----